

平成26年度第1回横浜市子ども・子育て会議 保育・教育部会 会議録	
日 時	平成26年4月22日(火曜)午前9時から午前11時まで
開催場所	松村ビル地下1階 マツ・ムラホール
出席委員	増田部会長、山本副部会長、神長委員、木元委員、佐野委員、納米委員、長谷山委員、米田委員、渡辺委員
欠席委員	岸井委員
開催形態	公開(傍聴者2人)
議 題	<p>【議題】</p> <p>1 本市の認定こども園における取組について (運営法人による説明)</p> <p>2 本市における認定こども園の方向性について</p>
決定事項	
議 事	<p>【議題】</p> <p>1 本市の認定こども園における取組について (運営法人による説明)</p> <p>学校法人渡邊学園 渡邊理事長及び学校法人八ツ橋学園 篠崎理事長から認定こども園における取組みについて説明</p> <p>(納米委員) 制服があるのか。また、保護者の受けとめはどうか。行事については、働いている親にとっては気になるところだと思うが、幼稚園の保護者の方が行事にたくさん来るであるとか、そのあたりはどのようになっているか。</p> <p>(篠崎理事長) 保育園に入園される際に、3歳児以降は制服を買っていただきますということを伝えているので、その時点で選ぶかは保護者に一任されている。行事については、うちの場合に限っては、余り差がないと感じている。</p> <p>(神長委員) 教育時間と保育時間という分け方をしているが、園として何か気遣っていること、ここに配慮するということを教えてほしい。</p> <p>(渡邊理事長) 9時から14時までの先生と、11時ぐらいの給食のところから来て19時半までの先生とかに分かれている関係で、子どもと離れている時間がある。子どもと離れて議論をしたりとか、話をしたりとか、保育の準備をしたりとか、その時間がないと多分、こういう日々の保育に追われていない形で新たなことに挑戦していくみたいなことはなかなかしづらいかなどは思っている。</p> <p>(篠崎理事長) 私も、午後からの時間については、午前中に子どもの様子を見てある程度、子どもの様子をわかった先生たちがみんな預かり保育のほう、それから、保育園のほうに入っていくので、教育との連続的なことも加味したカリキュラムというものをつくってもらっている。</p> <p>(米田委員) 新しく取り組むところは大変なのではないかなということも思った。新しく今後取り組まれる園にとって、課題となる点や、それを超えていくための工夫や、認定こども園を運営されていて感じていることがあったらお聞かせいただきたい。</p> <p>(渡邊理事長) 保育園とか幼稚園はそれぞれの思いがある。どこかいいものがあるって、それをぼんと持ってきて、それをやればいいという話ではなく、その園の状況の中でどういうやり方をしていくかというのを考えるところが、そこはやはり考えなければいけないという意味では大変だろうと思う。ただし、幼稚園と保育園でずっと分かれていたというのが、それがずっと続くことがいいかといえば、子どもたちが幼稚園でも保育園でも親の就労で分かれていないで、みんな、その園に来られるという制度をきちんとつくっていくことはやはり意味があるかなと思う。</p> <p>(篠崎理事長) 認定こども園は地域の中で子育て支援の全て、学童も含めて子育て支援の場所であればいけないと思っている。また、安心して子育てができる場所をつくってあげることが認定こども園のこれからの使命であろうと思っている。</p> <p>(長谷山委員) 障害のある子どもたちを受入れていると思うが、注意されていることなどをお聞きしたい。</p> <p>(渡邊理事長) 障害があることに関して、私は全面的に保護者には言わない。ありのままの子どもでいいのだということを引きちゃんと伝えようとするのは、やはり乳幼児期はすごく大事だと思っている。</p> <p>(篠崎理事長) うちの園も、お互い認め合って、みんな親しく、差別することもなく、みんなと一緒に育っている状況がある。ですから、幼児期から一貫して育ってくる大切さというものは非</p>

	<p>常にいいのかなと思う。</p> <p>2 本市における認定こども園の方向性について (事務局) 資料に基づき説明</p> <p>(山本副部長) 意見として言わせていただきました保育所からの移行についても、将来の方向性ということで入れていただいていたので、少しよかったなと思っている。</p> <p>(米田委員) 認定こども園の子育て支援機能の部分については、在宅で子育てしている人たちも利用できる場所になる。利用するだけではなくて、参加をして、親が育っていく場というふうに位置づけられていくのが子ども時代を豊かにしていくのではないかなと考える。</p> <p>(山本副部長) 大切なのは、親の就労の形で子どもの居場所を決めない形にするということの意味で始まったというところを大切に、子どもが育つ場所というところをやはり強調した内容にしてほしいと思う。</p> <p>やはり子どもの教育・保育のためには、親の就労で形を切らないということと、それから、子どもの時間を分断しないのがとても大切ではないかと思う。</p> <p>(増田部長) これからの新たな制度に向けて、当然ながら、今の質を下げてはならない。子どもにとっても、そして、その育て手である保護者、また、保育を担う保育者たち、この問題もたくさん課題を抱えている。それぞれが、長いそれぞれの文化というものの中で行われてきたことが、一体化という流れができて、もう随分、年数を経過しているものの、まだまだ十分な形での理解、そして、融合というところまでには至っていないと思う。</p> <p>そういう中で、こうした流れをどう横浜が今まで積み上げてきたものを生かしつつ、そして、幼保がお互いにそれぞれが質を高めようと努力してきたことを改めて整理しながら、新たな形をつくり上げていくということではないかと思う。</p>
配布資料	<p>資料1 横浜市子ども・子育て会議保育・教育部会 委員名簿</p> <p>資料2 横浜市子ども・子育て会議保育・教育部会 事務局名簿</p> <p>資料3 横浜市子ども・子育て会議条例</p> <p>資料4 本市における認定こども園の方向性について (案)</p> <p>資料5 子ども・子育て会議等での条例案にかかる意見聴取について</p>
特記事項	なし